

第2学年 国語科学習指導案

児童 2年3組 男子14名 女子9名

指導者 新山 留美子

1 単元名 お話の人ぶつになりきって、音読げきをしよう

2 学習材名

中心学習材 「お手紙」(光村図書2年下)

補助学習材 「ふたりはともだち」 「ふたりはいっしょ」

「ふたりはいつも」 「ふたりはきょうも」(文化出版局)

3 単元を貫く言語活動とその特徴

場面の様子について想像を広げ、音読劇をすること

本単元を貫く言語活動として「場面の様子について想像を広げ、音読劇をすること」を位置付けた。音読劇の方法として、声と簡単な体の動きとでお話を表すことを設定する。

音読劇をするためには、会話文や地の文を役割分担し、場面の様子が伝わるように音読を工夫したり、簡単に動作化したりする必要がある。そのためには、登場人物の行動や会話文に着目して読み取り、登場人物に寄り添いながら音読したり体を動かしたりすることが欠かせない。

このことから、本言語活動は「場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと」(C読むことウ)の実現に結び付くものと考えた。

4 単元について

(1) 児童について

児童は、「ふきのとう」で「役に分かれて工夫して音読すること」の言語活動を通して、叙述を根拠に読み方を考え、想像したことを自分の音読表現に生かすことを学んだ。また、「スイミー」で「好きな場面の感想を書くこと」の言語活動を通して、登場人物の行動や言ったことに着目して場面を想像して読むとともに、好きな場面の大事な言葉を書き抜き、感想を書くことを学んだ。これらの学習を通して、場面の様子が表れるように音読したり、登場人物の行動に気を付けながら読んだりする力が身に付いてきている。一方で、登場人物の行動を十分に読み取って場面の様子を豊かに想像することや、場面の様子がよく表れるように工夫して音読することについては、今後も指導していく必要がある。

(2) 指導について

中心学習材「お手紙」は、友達の不幸せをいっしょに悲しみ、幸せを共に喜ぶかえるくんとがまくんの心の触れ合いを通して、二人の友情が伝わってくる作品である。

補助学習材は、「お手紙」が収録されている「ふたりはシリーズ」である。短気で少しわがままなところがあるけれど憎めないがまくんと、がまくんに比べて少し大人っぽくとても優しいかえるくんととの関係が描かれている。登場人物が少なく会話を中心として物語が展開していくため、人物

の心情やその変化が理解しやすい。また、会話の際の二人の位置、距離、しぐさ、顔の向きを考えると、二人の心情と心の通い合いを豊かに想像することができる学習材である。

単元を通して、次の三つを大切にしていきたい。

一つ目は、「単元のめあてを知り、学習の見通しをもつこと」である。音読劇をイメージしやすいようにモデルVTRを視聴させ、お話の人物になりきるのは面白そうだという気持ちをもたせたい。そして、なりきるためには登場人物の行動や会話文などから場面の様子を想像することが必要であることを押さえ、1年生に披露する音読劇発表会に向けた学習の流れをつかませたい。

二つ目は、「並行読書の話で、音読劇発表会を行うこと」である。シリーズを通して描かれる登場人物の行動や、ストーリーのつながりに気付くことによって、解釈の手掛かりが多く得られるため、一つの作品だけよりも場面の様子について想像を広げて読むことができると考える。音読劇を行ったり鑑賞したりすることで、「ふたりはシリーズ」の世界観をより楽しませたい。

三つ目は、児童のつまずきが予想される「登場人物の行動や会話文から場面の様子を読むこと」である。登場人物の行動や会話文にサイドラインを引いて想像したことや読み方の工夫を書き込ませ、その根拠を話し合いで明らかにすることによって場面の様子をしっかりと読み取らせていきたい。

本時は、がまくんとかえるくんの行動や会話文から想像したことを、どのように読み方を工夫すれば場面の様子が相手によく伝わるかを考えさせたい。

5 単元の指導目標

○場面の様子が表れるように工夫して音読劇を行い、物語の世界を楽しもうとしている。

(関心・意欲・態度)

◎登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むことができる。

(読むことウ)

○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。

(読むことア)

○主語と述語の関係を理解して文章を読むことができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(カ))

6 単元の評価規準

	国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語文化についての 知識・理解・技能
おおむね満足 できる状況	音読劇の楽しさに気付いたり、自分の思いを表現したりしようとしている。	◎登場人物の行動に気を付けて読み、場面の様子を想像している。 ○場面の様子が表れるように音読している。	文の中における主語と述語との関係を理解している。

7 単元の学習計画及び評価計画（読むこと 13時間）

段階	時間	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)			
見通す	1	1 単元のめあて、言語活動をつかみ、学習の見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">お話の人ぶつになりきって、音読げきをしよう。</div>	○音読劇の要素を把握させる。 ○「ふたりはシリーズ」の話を音読劇にして、1年生に発表するという活動のイメージをもたせる。	関一音読劇をすることに 関心をもつ。(発言, シート) 関一発表会へ向けての意 欲を高めている。(発言, シート)			
	2				2 学習計画を立てる。 ○音読劇をする話を選ばせる。		
深 め る	3	3 「お手紙」を読み、 物語のあらすじをつか む。(㉑～㉕場面)	○物語の設定、構成をつかませる。 ○自分の好きな場面をどのように 音読劇に表したいか、初発の感想 として書かせる。 ○主語と述語を理解させ、誰の会話 文かとらえさせる。 ○教科書に音読劇の工夫を書き込 んだものを台本として扱うこと を確認する。	関一音読劇の楽しさを感じ ている。(発言, 音読 劇, シート) 関一物語のあらすじをと らえている。(発言, ノ ート, シート)			
	4				4 ㉑と㉒の挿絵を対 比し、㉑の場面の様子 を想像し、音読劇をす る。	関一場面の様子について 想像を広げながら読ん でいる。(発言, 台本, シート) 関一場面の様子が表れる ように音読している。 (発言, 音読劇)	
	5				5 ㉑の場面の様子 を想像し、音読劇をす る。		
	6				6 ㉑の前半場面の様 子を想像し、音読劇を する。		
	7				7 ㉑の後半と㉒の場 面の様子を想像し、音 読劇をする。		
	8				8 ㉒の場面の様子 を想像したり、自分の好 きな場面の音読劇をし たりする。		関一主語と述語の関係を 理解している。(台本)
	9				9 ㉒の場面の様子 を想像したり、自分の好 きな場面の音読劇をし たりする。		
	10				10 ㉒の場面の様子 を想像したり、自分の好 きな場面の音読劇をし たりする。		
11	11 ㉒の場面の様子 を想像したり、自分の好 きな場面の音読劇をし たりする。						
広 げ る	9	9 自分の選んだ話につ いて、音読劇の仕方を 考える。	○学んだことを生かしなが ら、登場人物の気持ちや 読み方の工夫を考え、 台本に書き込ませる。 ○台本をもとに、友達と アドバイスし合いなが ら音読劇を工夫させる。	関一音読劇の楽しさを感じ ている。(シート) 関一場面の様子について 想像を広げながら読ん でいる。(発言, 台本)			
	10	10 音読劇の練習をす る。					

	12	11 音読劇発表会に向けて音読劇を仕上げる。 ※昼休み時間に音読劇発表会を行う。	○ビデオに撮り、客観的に見ることで、修正を図らせる。	☑一場面の様子が表れるように音読している。 (発言、音読劇)
	13	12 単元の振り返りをする。	○音読劇発表会のビデオ観賞をしながら活動を振り返り、本単元で身に付いた力を自覚させる。	

8 本時の学習 (8 / 13)

(1) 目標 場面の様子が表れるように音読のしかたを考え、想像を広げながら読むことができる。

(2) 展開

段階	学習活動	学習内容 (◎主発問)	指導と評価のための工夫
8	1 前時の学習を想起する。 2 本時の学習課題, 学習の流れを確認する。	○前時の学習場面の音読劇をすること	・音読劇の要素である「登場人物の気持ちを想像する」「読み方の工夫」を意識させる。
	がまくんとかえるくんになりきることができるだいな本をつくって、音読げきをしよう。		
展開	3 場面の様子が表れるように、音読の工夫を考え、台本を作る。 (1) 行動や会話文にサイドラインを引き、想像したことや読み方の工夫を書き込む。 (2) 全体で話し合う。	○想像したことや読み方の工夫を書き込み、自分の考えをもつこと ・行動 ・会話文 ○全体で話し合い、自分の考えを深めること 〈がまくん〉 ・不思議そうに ・がまくんの驚きが表れるように文末を上げて読む。 ・幸せな気持ちが表れるように優しい声でゆっくり読む。 〈かえるくん〉	・場面様子を想像させるために行動と会話文に着目して考えさせる。 ・自力で書くことが難しい児童には、登場人物の気持ちを確認し、どう音読したいのかを聞き出して支援する。 ・自分の考えの深まりが分かるように、書き足しや書き直しは色ペンを使わせ、区別できるようにする。 ・行動や会話文に着目して読み方を工夫すると、場面の様子がよく伝わることを実感させる。

30	4 場面の様子が分かるように、音読劇をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・元気づけるように ・思いやる気持ちで <p>◎がまくんの気持ちが大きく変わったところはどこですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ああ」 ・「とてもいいお手紙だ」 <p>○がまくんとかえるくんになりきって音読劇をすること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の考えが深まるように、がまくんの心情の変化をとらえさせたり、そのきっかけとなったかえるくんの書いたお手紙の内容に着目させたりする。 ・場面の様子について想像を広げやすいように、前時に学習した場面から音読劇をさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈評価規準〉</p> <p>場面の様子について、登場人物の行動や会話文に着目して想像を広げながら読んでいる。</p> <p>(発言・台本・音読劇)</p> </div>
終末 7	5 本時の学習を振り返る。 6 次時の学習を確認する。	○ふりかえりシートを使って、自己評価すること	・観点に沿って振り返ることで、本時で身に付けた力を実感させるようにする。

(3) 板書計画

音読げきをする

- ・がまくんの気もちのへんかが分かるように、音読げきをする。
- ・かえるくんのやさしさがあらわれるように、音読げきをする。

本文

だい本づくり

- 1、 かどうかや会話文に、線を引く。
- 2、 がまくんやかえるくんの気持ちや読み方のくふうを書きこむ。

お話の人ぶつになりきって、音読げきをしよう。

がまくんとかえるくんになりきることができるといふ本をつくって、音読げきをしよう。

ふりかえり